

(事例63) 33歳男性、製造業、パニック障害のための出勤・退社時間への配慮

類型	症候	疾患
5	2. パニック発作	15. パニック障害

(事例4) 以下に、『就業制限・配慮に至った事例』をご記入下さい。

きっかけ	<input type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input checked="" type="checkbox"/> その他の機会
<p>1. 対象者のプロフィール</p> <p>1) 年齢、既往歴 33歳、男性</p> <p>2) 業種、作業内容 家電製造業、企画・開発部門、常日勤</p>		
<p>2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など <症状として>広場恐怖を伴うパニック発作 (会社提出の診断書病名は異なっていた)</p>		
<p>3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 一日清算型フレックスタイム制の適用により、朝の通勤時間を早める措置を講じた</p>		
<p>4. 事例の詳細 (背景、経緯、特に考慮した事情など)</p> <p>以前よりメンタルヘルス不調や睡眠時無呼吸症候群などの治療を受けていた。 通勤電車の困難さがあり、職場内での調整が可能であったことより、通常の就業時間より早い時間帯から入社して業務を行うこととし、フレックスタイム制適用ケースとなった。</p>		
<p>5. 就業制限・配慮の主な目的 (複数回答可)</p> <p>⑤ 健康上の理由や能力的な適性から業務を制限する場合</p>		
<p>6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えて下さい</p>		